

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	石川 亮子
主な担当科目	音楽美学 B,課題研究Ⅰ,課題研究Ⅱ、Ⅲ,器楽の歴史と作品 A,鍵盤音楽の歴史と作品,原典講読研究Ⅰ,原典講読研究Ⅱ,西洋音楽史Ⅰ,西洋音楽史Ⅱ_C,西洋音楽史研究Ⅲ,西洋音楽史特殊講義,博士外国語原典研究特講Ⅱ
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	①明快でわかりやすく学生の興味を引き出す授業 ②公平で公正な成績評価 ③ICTを活用したオンデマンド授業の構築 ④初年次の履修者を対象とする科目の授業構築
2024年の教育に関する自己評価	①と②については、教員として常に取り組んできたことである。③については、具体的には「西洋音楽史Ⅱ」の科目に相当するが、オンデマンドの動画作成はほぼ完成してきた一方で、課題のやり取りや質問の回答とディスカッション等について、さらにやり方を検討していく必要があると感じている。それは④ともつながっており、次年度から「西洋音楽通史」が新カリキュラムのメディア授業として始まるが、初年次の学生を対象として、いかにわかりやすく効果的に学ぶことができる科目に構築できるか、集中的に取り組んでいきたいと考える。
2024年のFD活動に関する自己評価	FD全体研修会だけでなく、分科会FD研修会についても、すべて出席し、様々なコースの先生方と有意義な情報交換、意見交換ができるように務めた。
授業改善のために取り入れた研修内容	留学生を含めた多様な背景を持つ学生が学んでおり、ひとりひとりの事情を理解しながら丁寧に向き合うことを常に心がけている。また、ユニパとTeamsの活用について、様々な方法を知ることができたので、ユニパで小テストを実施する等を実施している。

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1863 教員名:石川 亮子

1) アンケート結果に対する所見

昨年度に引き続き、回収率が圧倒的に低いなかで全体的な所見を述べるのが難しいため、自由記述にみられた点について 2) で記述する。

2) 要望への対応・改善方策

・「まわりの受講生がうるさい」

講義科目において、私語をやめない学生がいる場合、何度か注意することはあったが、引き続き迷惑に感じている学生がいることを深く反省している。授業に集中したいと考える学生の権利を守ることを、次年度はより強く意識して臨みたい。

・「学生の反応をもっと見てほしい」「最初から作業をしながら授業を進めてほしい」

講義と演習の中間的な科目の場合、説明する時間と実際にワークを行う時間の割合を、学生の反応をよく確認しながら調整して進めていく必要がある。

・「楽曲分析とともに歴史を見ることができたので楽しく、とても勉強になった」

今回、初めて「鍵盤音楽の歴史と作品」の後期 15 回を担当した。楽曲分析を行う授業科目が少ないという意見があったため、分析を書き込んだ楽譜を配付し、鍵盤音楽の歴史を具体的な楽曲の分析とともに語ることを実践してみたが、うまくこちらの意図が伝わっているようで安心した。引き続き、歴史的かつ分析的視点も組み込んで、授業を展開させていきたいと考える。

以上のように、学生とのコミュニケーションを大事にしながら、様々な情報をわかりやすく明快に発信してことを心がけていきたい。

3) 今後の課題

アンケートについては、何よりも回収率を上げなければ、学生からの声を公正に聴く機会を得ることにはならない。14 回目の授業日以降という設定は、定期試験に向けて授業内容も集中していく時期であり、学生側も教員側も、なかなか授業アンケートという雰囲気になるのが難しい。そのため、実施時期について検討することを再度お願いできればと考える。また、同時に、授業アンケートの意義についても、しっかり学生と共有していくことを行っていきたい。

以 上